

平成 2 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 学びに向かう意欲を高め、自己実現に導く学校
- 確かな信頼関係を基盤に豊かな人間力を育む学校
- 先進的、先導的な教育実践に教育センターと一体となって取り組むナビゲーションスクール

2 中期的目標

ナビゲーションスクールとしての基盤の確立にむけて



1 新たな学びの創造

- (1) 「学びのクローバー」に配された「発見」「探究」「感動」「自信」をキーワードに授業改善に取り組む。
- ア 「生徒中心の授業」アクティブラーニングを授業に導入し、生徒の能動的な学習を図る。
 - イ 基礎・基本の徹底からPISA型学力の育成をめざした授業づくりを行い、考える力の育成を図る。
 - ウ 探究ナビを教育活動の柱とし、生徒の力を最大限に引き出す授業づくりに取り組む。
- ※自己診断アンケートで「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」(平成 25 年度 55%) を毎年 5% 引き上げ、平成 28 年度には 70% にする。

2 教育センターと一体となった授業研究

- (1) 先進的・先導的な授業実践や授業研究を教育センターと共同で行い、他の府立高校における授業改善の参考となるようその成果を発信する。
- ア 外部機関と連携した多彩な授業プログラムの開発を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。
 - イ すべての教科で観点別評価についての研究・実践を行い、成果を府立学校へ発信していく。
- ※平成 28 年度には、すべての教科で観点別評価を行う。

3 生徒の自己実現を叶える学校

- (1) 生徒が見守られ感を感じる学校作りを行う。
- ア 多面的、総合的に生徒をサポートする学校組織体制の構築を行う。
 - イ 人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。
 - ウ 教育支援委員会の充実を図り、支援の必要な生徒を早期に把握し生徒の指導計画について検討し、本人も保護者も安心して学校生活を送れるようにする。
 - エ 全職員への情報の共有と共通理解を深めるためにケース会議を充実させる。
- (2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。
- ア 自分の進路に目標をもち、実現に向けて努力する生徒を育てる。
 - イ 自学自習の習慣をつける。
- (3) 部活動の活性化を図る。
- ア 生徒の活動を共有できるようにする。
- ※自己診断アンケートで「自分は大切にされていると感じることがある」(平成 25 年度 65%) を毎年 5% 引き上げ、平成 28 年度には 80% にする。
センター試験の受験者数を、毎年前年度の 2 倍にし、平成 28 年度には 50 人にする。

4 教師力の育成を図る

- (1) 授業研究会が常態化する教師集団の育成を図る。
- ア 経験年数の少ない教員を中心とした校内研修組織を引き継ぎ発展させる。
- ※自己診断アンケートで「教員間でお互いの授業を見学する機会があり、授業について意見交換するなど自律的な風土がある」(平成 25 年度 75%) を毎年 3% 引き上げ、平成 28 年度には 84% にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 2 7 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒向け】</p> <p>質問項目の 22 項目中、肯定的回答が 7 割以上のものは、次の 10 項目で、本校の特色ある科目「探究」を核とした授業で、ねらいとするコミュニケーション能力の育成、協同する喜びの体験、思考判断表現する活動、キャリア教育が推進できていることが反映された結果といえる。さらに、安全で安心な学校づくりに向けては、居場所づくり、人権教育の推進、危機管理意識の向上が反映されたものとなっている。</p> <p>【教職員向け】</p> <p>校内授業研究委員会の取組や教育センターと連携した授業研究等により、「授業で考える力を育成するために指導方法の研究や改善に努めた」という項目の肯定的評価 100% と、基礎学力をもとに「考える活動」を取り入れようとしていることがよくわかる。また、生徒の情報の共有・教育相談体制の</p>	<p>第 1 回 (5/23)</p> <p>OH26 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の入部率を上げることが学力を伸ばすことに関わってくると考える。今後も部活動の加入率をあげていくことは大切だ。服装の乱れも少なくなっている。やはり近隣や外部から評価されるので今後も意識していくべきだ。 ・昨年よりも良い雰囲気を感じ、学校のベクトルが見えてきた。各々の取組とその成果が見えるようになった。 ・学校説明会に参加して、自己表現力を育てる教育など魅力的に感じた。「生きる力」を育てるためには教育センター附属だと考え、入学させた。子ども自身、学校行事や部活動に熱心に取り組んでおり、学校に対する愛着心がうかがえる。 ・教員が教科のみ携わっているのではなく、生徒に関わる様々な分野で活動できていることは良い。若手教員も優秀だが、若手教員を指導するベテラン教員が存在する点が良い。 ・センター附属の知名度がまだまだ低い。出前授業などさまざまな所に出向いて知ってもらえる機会を増やすことをしてほしい。授業内容は「相手のニーズ」にこたえることが大切。センター附属のことを知って、センター附属に愛着心をもつ子どもを早い段階で増やしてほしい。

府教育センター附属高等学校

<p>整備についても評価が高く、教職員間の連携が十分であることがわかる。</p> <p>【保護者向け】</p> <p>16項目すべての項目が前年度を上回っており、PTAを中心として保護者と学校との連携が進んだことがあり、保護者の期待や相談に応えることができているとともに学校の方針や取組に理解を示していただいている結果と考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングや反転授業をより活発的に実施してほしい。そのためにはさらなる環境整備が必要である。 ・「意欲」を評価するのは難しい。観点別評価の具体的な方法とその目的を考える必要がある。 ・生徒の進路実現や教員の養成につながるすばらしい取組をしている。探究ナビを中心にそれらの取組を報告書としてまとめるなどして、ナビゲーションスクールの役割として学外に発信してはどうか。 																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>アンケート項目(生徒)</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自分の学校生活は充実していて、入学して良かったと思っている。</td> <td>85%</td> <td>→85%</td> </tr> <tr> <td>以前よりもコミュニケーションがうまくとれるようになった。</td> <td>72%</td> <td>→73%</td> </tr> <tr> <td>クラスには自分の居場所がある。</td> <td>81%</td> <td>→83%</td> </tr> <tr> <td>まわりの人と協力することは楽しいことだ。</td> <td>82%</td> <td>→81%</td> </tr> <tr> <td>授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。</td> <td>75%</td> <td>↑84%</td> </tr> <tr> <td>コンピュータやプロジェクトなどを使った授業がある。</td> <td>81%</td> <td>→84%</td> </tr> <tr> <td>将来の進路や生き方について考える機会がある。</td> <td>79%</td> <td>↑85%</td> </tr> <tr> <td>学校行事は充実して楽しい。</td> <td>74%</td> <td>→72%</td> </tr> <tr> <td>命の大切さや人権を尊重した教育活動がなされている。</td> <td>71%</td> <td>↑76%</td> </tr> <tr> <td>防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている。</td> <td>79%</td> <td>→80%</td> </tr> </tbody> </table>		アンケート項目(生徒)	H25	H26	自分の学校生活は充実していて、入学して良かったと思っている。	85%	→85%	以前よりもコミュニケーションがうまくとれるようになった。	72%	→73%	クラスには自分の居場所がある。	81%	→83%	まわりの人と協力することは楽しいことだ。	82%	→81%	授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。	75%	↑84%	コンピュータやプロジェクトなどを使った授業がある。	81%	→84%	将来の進路や生き方について考える機会がある。	79%	↑85%	学校行事は充実して楽しい。	74%	→72%	命の大切さや人権を尊重した教育活動がなされている。	71%	↑76%	防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている。	79%	→80%	<p>第2回（11/20）</p> <p>OH26年度学校経営計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2・3年生の数学の授業も1年の反転授業のような取組を考えてほしい。 ・高校生は社会に出る一歩前。子どもたちがどういう社会をつくっていくのか期待している。「生きる力」をどう育むのか課題と考える。各教科が縦割りでなく、教科を総合的に・横断的に絡ませて育ててほしい。 ・附属高校としての成果ができて、全体のまとまりが感じられるようになった。今年度大学でも「人間力の低下」を防ぐために、1年次対象にアクティブラーニングに取り組んでいる。まさに教育センター附属の探究ナビと同じ仕組みである。 ・ナビゲーションスクールとしての成果がみられるようになったと感じる。一方で、今後果たしてそれがどう評価されるようになるかは、生徒が、保護者が、どう感じるかに関わってくると考えられる。「生きる力」を身に付ける生徒を育てるために、現場で話し合い高めてほしい。
アンケート項目(生徒)	H25	H26																																	
自分の学校生活は充実していて、入学して良かったと思っている。	85%	→85%																																	
以前よりもコミュニケーションがうまくとれるようになった。	72%	→73%																																	
クラスには自分の居場所がある。	81%	→83%																																	
まわりの人と協力することは楽しいことだ。	82%	→81%																																	
授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。	75%	↑84%																																	
コンピュータやプロジェクトなどを使った授業がある。	81%	→84%																																	
将来の進路や生き方について考える機会がある。	79%	↑85%																																	
学校行事は充実して楽しい。	74%	→72%																																	
命の大切さや人権を尊重した教育活動がなされている。	71%	↑76%																																	
防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている。	79%	→80%																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>アンケート項目(教職員)</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業で考える力を育成するために、指導方法の研究や改善に努めている。</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>生徒に関する情報などを共有する機会があり、共通理解が得られている。</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		アンケート項目(教職員)	H26	授業で考える力を育成するために、指導方法の研究や改善に努めている。	100%	生徒に関する情報などを共有する機会があり、共通理解が得られている。	98%	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。	100%	<p>第3回（2/4）</p> <p>OH26年度学校経営計画の報告及びH27年度計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たち教員が、今後生徒たちがどういう大人になってほしいかを考えることが学習内容の精選につながる。 ・公立高校学区制がなくなったことで受験する高校の範囲が本年度より広がっているので、広報活動を広域で行う必要があるのではないか。 ・学校の取組を多面的に知ることができたら、子どもに対する声かけや家庭で教えることが良い方向にかわる。 ・進学先の実績だけでなく、教職員が生徒の進路実現に対して親身になって考えてくれることがわかるからこそ、生徒は自分の目標や目的を見つげられる。 ・「探究ナビ」はまさに社会において必要な力を身に付けられる授業だと感じる。探究を生かすためにも家庭での学習を定着し、基礎固めをしてほしい。 ・「アクティブラーニング」が定着するなど、ナビゲーションスクールとしての役割を果たしている。 ・大和川高校の伝統を受け継ぎつつ新たな文化を形成し、良い方向にベクトルが向いている。 ・高校生のうちに様々な体験をすることによって、なりたいものややりたいものを見られる。最終的には教員のレベルアップが生徒の自己実現や成長につながるのではないか。 ・ピンバッジの取組は効果的である。 ・来年度は教育センター附属高校5周年、うまく活用してより広域に発信していくべきである。 ・ナビゲーションスクールとして、大阪府全体の教育を担っているという教員一人ひとりの意識が必要である。 																									
アンケート項目(教職員)	H26																																		
授業で考える力を育成するために、指導方法の研究や改善に努めている。	100%																																		
生徒に関する情報などを共有する機会があり、共通理解が得られている。	98%																																		
教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。	100%																																		

府教育センター附属高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
新たな学びの創造	<p>(1)「学びのクローバー」に配された「発見」「探究」「感動」「自信」をキーワードに授業改善に取り組む。</p> <p>ア「生徒中心の授業」アクティブラーニングを授業に導入し、生徒の能動的な学習を図る。</p> <p>イ 基礎・基本の徹底からPISA型学力の育成をめざした授業づくりをおこない、考える力の育成を図る。</p> <p>ウ 探究ナビを教育活動の柱とし、生徒の力を最大限に引き出す授業づくりに取り組む。</p>	<p>ア・「授業研究委員会」を中心にアクティブラーニングをねらいにした研究授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教科科目においてICTを活用した授業づくりに取り組む。 反転授業に取り組む。 <p>イ・学びなおしにより基礎・基本の徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ学習を授業に導入し、考える力の育成を図る。 探究ナビの手法を活用し、考える力の育成を図る。 <p>ウ・探究ナビをキャリア教育の柱と位置付け意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究ナビにおいて、演劇的手法を活用したコミュニケーション能力の育成や言語活動の充実に取り組む。 防災教育の充実を図る。 府立大学や大阪国際大学等大学との連携 	<p>ア・アクティブラーニングをねらいとした授業研究を2回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断アンケートの結果「教員間でお互いの授業を見学する機会があり、…」の肯定的回答が78%以上 反転授業を行う <p>イ・一般教科でのグループ学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断アンケートの結果「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定的回答が60%以上 <p>ウ・自己診断アンケートから「以前よりもコミュニケーションがうまくとれるようになった」の肯定的回答が75%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災教育を探究科で取組 大学の授業を受講する 	<p>ア・アクティブラーニングを初期段階とし、パフォーマンス課題やルーブリック作成にステップアップした研究授業をすべての教科でトータル40回行った。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期より、2学期の授業見学の回数は若干増えたものの、自己診断アンケートの結果は、68.2%に留まった。(△) 反転授業は、1年数学Iで年間を通して実施した。成果として、予習習慣の定着があげられる。(○) <p>イ・1時間をとおしてグループ学習は行わないが、適宜グループ活動を入れて行う授業は、常時実施されている。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断アンケートの結果は、54.1%で昨年度とほぼ同じ結果であった。(△) <p>ウ・自己診断アンケートの結果は、72.6%で昨年度並みであった。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 演劇的手法の活用では、生徒は授業を楽しみしており積極的に参加している。(◎) 探究で扱った内容と防災士による講演が、示している資料は異なったが話す内容が一致していたので生徒の理解がより進んだ。(◎) 大学連携により、大学教員による英語の授業を2回、79人が受けた。(○)
教育センターと一体となった授業研究	<p>(1) 先進的・先導的な授業実践や授業研究を教育センターと共同で行い、他の府立高校における授業改善の参考となるようその成果を発信する。</p> <p>ア 外部機関と連携した多彩な授業プログラムの開発を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。</p> <p>イ すべての教科で観点別評価についての研究・実践をおこない、成果を府立学校へ発信していく。</p>	<p>ア・外部機関や外部人材を活用した授業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育センターと共同した授業研究会を日常化させる。 新しい「宇宙講座」の実施。 「国際理解教育」の推進を図り、国際社会で通用する人材を育成する。 <p>イ・すべての教科において観点別評価について取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価方法を生徒に示し、学習意欲を高める。 	<p>ア・自己診断アンケートから「学校は、特色ある教育活動に取り組んでいる」の肯定的回答が76%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期に1回教育センターと共同した授業研究会を行う <p>イ・自己診断アンケートから「全ての生徒が意欲的に取り組む授業をめざして、日常的に創意工夫を凝らしている」の肯定的回答が89%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究フォーラムでの報告 	<p>ア・外部機関や外部人材を活用した授業は、探究をはじめ、国語、理科、家庭、グローバルスタディーズ(GS)等々、数多く実施した。「宇宙講座」は、希望者少数の為、従来の内容を、テーマごとに希望者を集めて実施した。国際理解教育は、GSを中心に実施した。自己診断アンケートの結果は、88.4%と非常に高い評価であった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> センターと共同しての授業研究会は、学校全体としては、11月の授業研究月間のみであったが、教科毎には、週1回のペースで教育センター指導主事が授業に入って実施している。(◎) <p>イ・すべての教科で観点別評価に取り組み、年度末には、新1年用の観点別評価を含んだシラバス集を作成する。自己診断アンケートの結果は、86.4%であった。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> この1年の取り組みの概要を研究フォーラムで報告した。(○)

府教育センター附属高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">自己実現を叶える学校づくり</p>	<p>(1) 生徒が見守られ感を感じる学校づくりを行う。 ア 多面的、総合的に生徒をサポートする学校組織体制の構築を行う。 イ 人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。 ウ 教育支援委員会の充実を図り、支援の必要な生徒を早期に把握し生徒の指導計画について検討し、本人も保護者も安心して学校生活を送れるようにする。 エ 全職員への情報の共有と共通理解を深めるためにケース会議を充実させる。 (2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。 ア 自分の進路に目標をもち、実現に向けて努力する生徒を育てる。 イ 自学自習の習慣をつける。 (3) 部活動の活性化を図る。 ア 生徒の活動を共有できるようにする。</p>	<p>(1) 生徒が見守られ感を感じる学校づくりを行う。 ア・生徒支援会議を定期的開催する。 ・いじめやハラスメントを許さないクラスづくりをめざし、安心して学校生活を送らせるためのメッセージを定期的に発信する。 ・校務の効率化を図り、生徒と関わる時間を確保する。 ・生徒の良い面を見つけて伝えることで、自己肯定感を高める。 イ・人権教育を基盤とした生徒指導の実践研究に努める。 ・研修会を実施する。 ウ・高校生活支援カードを活用し、生徒の状況を早期に把握し、対応を行う。 ・授業で自己有用感や自信を育むための創意工夫を行う。 エ・職員会議等でケース会議の報告を行い、情報の共有を図る。 (2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。 ア・3年間を見据えた進路指導の在り方を、学年・教科と連携して行う。 ・模擬試験の結果を授業にも反映させ、生徒の力を伸ばす。 ・学校職場見学会を1年生から実施し、早くから目標をもたせる。 イ・生徒の自習室とガイダンス機能を併せもった新しいタイプの自習室を設け、自ら学ぶ生徒を育てる。 (3) 部活動の活性化を図る。 ア・部活動の加入率の向上と内容の充実を図る。 ・活動状況を共有する。</p>	<p>ア・自己診断アンケートから「自分は大切にされていると感じることがある」の肯定的回答が70%以上 イ・自己診断アンケートから「命の大切さや人権を尊重した教育活動がなされている」の肯定的回答が75%以上 ウ・自己診断アンケートから「学校生活の中で自分が認められたり、ほめられたりすることがある」の肯定的回答が70%以上 エ・自己診断アンケートから「生徒に関する情報などを共有する機会があり、共通理解が得られている」の肯定的回答が90%以上 ア・実力考査・模擬試験の到達度評価を前回よりあげる。 ・講習参加者数を平成25年度の2倍 ・センター試験の受験者数14人以上 ・3年生保護者の自己診断アンケートから「学校は、生徒の将来を真剣に考えた進路指導を行っている」の肯定的回答が75%以上 ・難関大学への入学 イ・家庭学習平均時間を1・2年生は1時間 3年生は2時間以上 ア・部活動加入率73% ・自己診断アンケートから「部活動に参加して、得ることがあった」の肯定的回答が65%以上</p>	<p>(1) ア・生徒支援・教育相談の会議は各々20回以上定期的開催した。(○) ・いじめやハラスメントの芽を摘み、安心して学校生活を送ることができるように配慮したきめ細やかな取り組みとして、ゆるりすと(相談室日より12回)の発行、デートDV防止授業、人権映画鑑賞、人権講演会、人権HRなどを通じて、ひとりひとりを大切に視点を生徒に発信し、各教員が個別の生徒のありように添いながら、生じる課題に対して丁寧に取り組んだ。(○) ・生徒を褒める指導の取組として校長表彰やピンバッジの授与などで、自己肯定感を高めていくことができた。(○) ・自己診断アンケートの結果は、65.4%で、昨年度並みであった。(△) イ・四回の教員研修を行った(DV防止・精神医療の専門家から見たいじめの防止・大阪府適応指導教室を利用した生徒の事例検討会・教職員のメンタルヘルスその予防と対応)。(○) ・自己診断アンケートは、75.6%で目標を達成した。(○) ウ・高校生活支援カードにより把握した生徒の状況に応じて保護者との面談を行い支援の体制作りをした。(○) ・自己診断アンケートは、68.1%でほぼ達成できた。(○) エ・自己診断アンケートは、97.7%と高い評価であった。(◎) (2) ア・年間計画をもとに、学年・教科と連携し、進路HR・進路行事を実施した。実力考査の結果は、各学年とも前年度より上昇している。(○) ・講習は406回(昨年度比1.6倍)、参加者総数はのべ5120人(昨年度比3.9倍)と、2/25現在の値ではあるが目標以上の増加であった。(◎) ・センター試験受験者は、理科・数学が新カリになり、科目数が増えたことによる影響が大きく、8人とどまった。(△) ・自己診断アンケートの結果は、77.5%(○) ・難関大学への合格者数は、昨年と同じであった。(○) イ・新タイプ自習室が軌道に乗り、自ら学ぶ生徒が育ちつつある。しかし、家庭学習平均時間は、9月調査時点では約20分で、昨年度よりは増えたものの、最終の調査結果は、3年生は52分、2年生は19分、1年生は、20分であった。(△) (3) ア・新入生の部活動加入率は70%であった。(○) ・自己診断アンケートの結果は、64.4%であった。運動部・文化部ともに、地域や近隣学校へスポーツ教室や演奏会など生徒主体の活動を発信する機会を多くもつことができた。また、バレーボール部・ダンス部・陸上競技部が近畿・全国大会出場、弓道部はインターハイにも出場した。空手部団体大阪府2位など、多くの成績も残せた。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教師力の育成</p>	<p>(1) 授業研究会が常態化する教師集団の育成を図る。 ア 経験年数の少ない教員を中心とした校内研修組織を引き継ぎ発展させる。</p>	<p>ア・授業研究委員会が統括し組織的・定期的な授業研究会を実施する。 ・授業研究を日常的に行う文化を醸成する。 ・首席、指導教諭が中心となって経験の少ない教員の様々な教師力のパワーアップをめざした自主学習会を実施する。 ・課題に適切に対応するための研修会を実施し、教師力を高める。 ・小中学校への出前授業の実施</p>	<p>ア・授業研究会、パワーアップ26の実施状況 ・自己診断アンケート「近隣の学校などとの交流の機会を設けたり、地元とのつながりを大切にしたい取り組みを進めている」の肯定的回答が65%以上 ・出前授業を4回実施する</p>	<p>ア・学期に3回の実施であった。それに加えて、全体の教員研修は4回実施した。(○) ・自己診断アンケートの結果は、65.1%であった。(○) ・出前授業は、生徒は部活動を中心に5回実施した。教員のみでは、小学校の水泳指導に2回関わった。(○)</p>